

委託事業実施内容報告書

平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 一般社団法人 ふくい市民国際交流協会

1. 事業名称

日本での生活術を学ぶ日本語講座

2. 事業の目的

外国人住民が、地域住民とのコミュニケーションを図り、地域の一員として生活していけるよう行政・警察・消防などの機関と連携し、生活に密接に関わる日本語の習得を図る。

3. 事業内容の概要

- 生活者としての外国人に必要とされる基礎的な日本語を身に付けることができる交流型日本語教室を開催する。
- 日本で生活する上で必要な、防災・防犯・交通ルール・住民としてのマナー・日本文化習慣について学ぶ。
- 地域住民への理解を促すため、シンポジウムを開催する。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年 5月21日 13:30～ 15:30	2時間	福井県国際 交流会館	鈴木 一美 東 利子 桶谷 道代 小林 美位子 小林 智恵 古田 裕哉 辻端 聡子	日本での生活術を学ぶ日本語講座について	・日本での生活術を学ぶ日本語講座事業内容の再確認 ・文化庁からの留意事項についての強化を検討
2	平成25年 9月3日 13:30～ 15:30	2時間	旧春山保育 園	鈴木 一美 東 利子 桶谷 道代 小林 美位子 小林 智恵 古田 裕哉 中内 明子 田畑 裕嗣 辻端 聡子	日本での生活術を学ぶ日本語講座について	・講座運営の中間報告 ・課題の洗い出しと解決方法を検討
3	平成26年3月13日 14:00～ 15:00	1時間	ふくい市民国際交流協会 事務所	鈴木 一美 東 利子 桶谷 道代 小林 美位子 古田 裕哉 田畑 裕嗣 辻端 聡子	日本での生活術を学ぶ日本語講座について	・今年度事業の振り返り ・課題の洗い出しと今後の対策を検討

【写真】



5. 取組についての報告

○取組1:日本での生活術を学ぶ日本語講座(春夏編)

(1) 体制整備に向けた取組の目標

行政担当課・消防・警察・観光コンベンションビューローと連携し、外国人住民が生活に必要な情報を学ぶことを目標とする。

(2) 取組内容

地震・水害・火事・防犯・護身・住民としてのマナー・医療機関での治療・日本文化などをテーマに日本語を学び、各連携機関から担当職員を招き必要な情報を学ぶ。

(3) 対象者

福井市内に住む外国人住民

(4) 参加者の総数 26人

(出身・国籍別内訳) 中国7人、韓国2人、ミャンマー1人、フィリピン3人、カンボジア1人、ベトナム2人、マレーシア1人、インドネシア1人、バングラデシュ1人、ドイツ1人、ルーマニア1人、アメリカ3人、カナダ1人、オーストラリア1人)

(5) 開催時間数(回数) 30時間 (全15回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	5月17日 (金) 14:00～ 16:00	2時間	旧春山保育園	9人	中国(7人) 韓国(2人)	住民としてのマナー	ゴミの出し方、ゴミの分別方法、公共のマナーについて学ぶ ゴミの分別方法については、福井市清掃清美課職員が説明	小林 智恵	鈴木 一美 古田 裕哉
2	5月24日 (金) 14:00～ 16:00	2時間	旧春山保育園	9人	中国(5人) ベトナム(2人) インドネシア(1人) ルーマニア(1人)	自治会	自治会や回覧板について学び、季節ごとの日本式挨拶について学ぶ	鈴木 一美	小林 智恵 中内 明子
3	5月26日 (日) 13:00～ 15:00	2時間	旧春山保育園	7人	バングラデシュ(1人) 中国(5人) ルーマニア(1人)	情報を集める 発信する	郵便局の利用、宅配便の依頼や利用、電話のかけ方を学ぶ	小林 智恵	古田 裕哉 桶谷 道代
4	5月31日 (金) 14:00～ 16:00	2時間	旧春山保育園	9人	中国(5人) アメリカ(2人) インドネシア(1人) ミャンマー(1人)	華道	華道について学ぶ	鈴木 一美	小林 智恵 中内 明子
5	6月9日 (日) 13:00～ 15:00	2時間	旧春山保育園	7人	中国(5人) バングラデシュ(1人) ルーマニア(1人)	料理	食品表示の読み方、日本のテーブルマナー、箸の使い方について学ぶ	中内 明子	鈴木 一美 小林 智恵
6	6月14日 (金) 14:00～ 16:00	2時間	旧春山保育園	7人	中国(5人) 韓国(2人)	地震	地震が起きたときの身の守り方、防災グッズについて学ぶ 身の守り方については、福井市消防署の職員が説明	竹内 憲博	桶谷 道代 牧野 ふみ代
7	6月23日 (日) 14:00～ 16:00	2時間	旧春山保育園	3人	ミャンマー(1人) マレーシア(1人) 中国(1人)	水害	福井市消防署の職員から、AEDの使い方を学ぶ 注意報、警報、避難勧告、避難指示など、災害時の用語を学ぶ 水害の際の身の守り方を学ぶ	桶谷 道代	竹内 憲博
8	6月28日 (金) 14:00～ 16:00	2時間	旧春山保育園	4人	中国(2人) 韓国(2人)	火事	福井市消防署の職員から、火事の際の対処法を学ぶ 119番のかけかたをロールプレイで学ぶ 水消火器を使った消火訓練	牧野 ふみ代	桶谷 道代 竹内 憲博

9	7月12日 (金) 14:00～ 16:00	2時間	旧春山保育園	11人	中国(7人) 韓国(1人) ドイツ(1人) カナダ(1人) インドネシア (1人)	着付け	着物に関する言葉や、着物の種類 を学ぶ 着物の着方を学ぶ	桶谷 道代	竹内 憲博 古田 裕哉
10	7月26日 (金) 14:00～ 16:00 14:00～ 16:00	2時間	旧春山保育園	11人	中国(6人) 韓国(2人) ドイツ(1人) アメリカ(1人) オーストラリア (1人)	伝統行事(夏)	夏の行事について学ぶ 福井観光コンベンションビューロー 職員から、福井フェニックス祭りにつ いて学ぶ	桶谷 道代	竹内 憲博 牧野 ふみ代
11	7月28日 (日) 13:00～ 15:00	2時間	旧春山保育園	3人	中国(3人)	防犯	防犯について学ぶ	東 利子	高島 尚美 小林 美位子
12	8月9日 (金) 14:00～ 16:00	2時間	旧春山保育園	7人	中国(3人) ドイツ(1人) ルーマニア (1 人) ミャンマー (1 人) カンボジア (1 人)	護身	護身に関する言葉について学ぶ 福井市警察署の職員から、護身術 や防犯の心得について学ぶ	東 利子	古田 裕哉 高島 尚美 小林 美位子
13	8月25日 (日) 13:00～ 15:00	2時間	旧春山保育園	3人	ミャンマー (1 人) ベトナム (1人) 中国(1人)	医療機関で の 治療	体の名前や症状の言い方を学ぶ 診察室での会話をロールプレイで学 ぶ 内科問診票を書き方を学ぶ	高島 尚美	東 利子 小林 美位子
14	8月30日 (金) 14:00～ 16:00	2時間	旧春山保育園	11人	アメリカ (2人) 中国(1人) インドネシア (1人) ルーマニア (1 人) ミャンマー (1 人) フィリピン (3 人) カナダ (1人) ドイツ(1人)	医療機関で の 治療(薬)	薬の種類や飲み方について学ぶ 処方箋を使って、薬局での会話を ロールプレイで学ぶ	古田 裕哉	東 利子 小林 美位子
15	9月8日 (日) 13:00～ 15:00	2時間	旧春山保育園	8人	中国 5人 ミャンマー (1 人) フィリピン (1人) ルーマニア (1 人)	伝統行事(秋)	秋の行事について学ぶ(遠足・運動 会・七五三) 遠足の持ち物についてのお便りの 読み方を学ぶ	小林 美位子	東 利子 古田 裕哉 高島 尚美

(7) 参加者の募集方法

県内国際交流団体、図書館、公民館、大学、ハローワーク、福井市役所、市内小中学校、幼稚園、保育園、外国人が通う教会、実習生受入れ団体に案内ちらしを送付。当協会ホームページ、FACEBOOKでの広報

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

第1回目「住民としてのマナー」

学習者が、母国のゴミの出し方について発表し、国や自治体によるゴミの出し方の違いを知り、何種類かのゴミの絵が描いてあるプリントを、学習者が持っている知識で分別した後、福井市清掃清美課職員から、ゴミの分別方法について聞き、最初にやった分別プリントの答え合わせをした。また、ゴミの出し方について近所の人はどう聞かかについてのロールプレイも行った。

第6回目「地震」

防災グッズを実際に用意し、一つ一つの名前を確認した。また、地震の際の様々な用語を学んだ後、福井市消防局の職員から、地震が起きた時の身の守り方や安全な避難のしかたについて学んだ。その後、「地震で怪我をした時」「避難所の場所が分からない時」「電話が繋がらない時」などのシチュエーションで、ロールプレイを行った。

第14回目「医療機関での治療(薬)」

薬のラベルや袋を使い「食前・食中・食後・食間」などの飲み方や、薬の形状について学んだ。また、学習者が、母国での薬のもらい方や処方箋の取扱いについて発表し、各国の違いを理解した後、薬局での会話をロールプレイで学んだ。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

外国人住民が生活に必要な情報を学ぶことを目標として、日本語教室を15回開催した。外国人26人が参加し、日本語指導者やボランティア18人が担い手として関わった。また、行政や消防、警察、観光コンベンションビューロー職員などから必要な情報を学んだ。

学習者の生活に密着した場面で使用できる表現や習慣が学習でき、関連機関の職員から話を聞くことで日本語指導者も正確な知識を教えることができた。

学習者の意見を取り入れるために、学習者に毎回「学習の記録」を記入してもらった。その中で下記のような感想がでた。

【第1回目 住民としてのマナー】

- ・スポンジが燃えるゴミか燃えないゴミかが一番難しかった。
- ・以前は間違ったゴミの出し方をしていたことが分かった。今日からやり直す。

【第5回 料理】

- ・箸の悪い使い方が分かった
- ・消費期限・賞味期限の違いが分かった

【第10回 夏の行事】

- ・お中元など、夏の行事のことが分かった

また、今後どのような日本語が学びたいかについては、「もっと丁寧な日本語の言い方」「敬語」「日本人の家に行く時の話し方」「日本の生活習慣について」など、日本社会にもう一歩足を踏み込みたいという気持ちを感じ取れた。

(10) 改善点について

学習者の日本語にレベルの差があるため、学習者によって難易の差が見られた。指導者やボランティアがフォローすることで学習をスムーズに進めることができたが、教室運営の難しさを感じた。

開催日時に関しては、就労者も参加できるようにと開催日を平日と週末の2回に設定したが、週末も就労者の参加が伸びなかった。また、夏休みに入ると留学生や主婦層に欠席が目立つようになった。事前リサーチが不足していたと思うので、開催日時の設定を改善していきたい。

テーマの設け方にも工夫が必要だと感じた。日本文化に関するテーマの回は多くの学習者が受講したが、防犯や防災などのテーマになると学習者が減った。チラシのタイトルを工夫するなど、分かりやすい広報をする必要がある。

○取組2:日本での生活術を学ぶ日本語講座(秋冬編)

(1) 体制整備に向けた取組の目標

行政担当課・消防・警察・観光コンベンションビューローと連携し、外国人住民が生活に必要な情報を学ぶことを目標とする。

(2) 取組内容

交通ルール、救急救命、事故の対応法、公共機関の利用、日本文化などをテーマに日本語を学び、各連携機関の担当職員を招き必要な情報を学ぶ。

(3) 対象者

福井市内に住む外国人住民

(4) 参加者の総数 24人

(出身・国籍別内訳 アメリカ3人、中国10人、韓国2人、カンボジア1人、ベトナム4人、ミャンマー1人、ドイツ1人、ルーマニア1人、オーストリア1人)

(5) 開催時間数(回数) 30時間 (全15回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	9月13日 (金) 14:00～ 16:00	2時間	旧春山保育園	6	アメリカ (2人) 中国(2人) ルーマニア (1人) ミャンマー (1人)	交通ルール	自転車の乗り方を中心に交通ルールを学ぶ	中内 明子	鈴木 一美 竹内 憲博
2	9月27日 (金) 14:00～ 16:00	2時間	旧春山保育園	7	アメリカ (2人) 中国(1人) ルーマニア(1人) ミャンマー (1人) 韓国(1人) ドイツ(1人)	バス 電車 タクシーを使う	公共の乗り物の乗り方や、道の案内の仕方を学ぶ	鈴木 一美	中内 明子 桶谷 道代 古田 裕哉
3	9月28日 (土) 10:00～ 12:00	2時間	旧春山保育園	3	アメリカ (2人) ドイツ(1人)	旅行先に行く には？	時刻表や旅行会社のパンフレットを利用して、旅行の計画をたてる	竹内 憲博	鈴木 一美 中内 明子
4	10月11日 (金) 14:00～ 16:00	2時間	旧春山保育園	3	ルーマニア (1人) ミャンマー (1人) 中国(1人)	徒歩で移動 する	教室周辺の地図の見方を学び、実際にウォークラリーで歩いてみる	鈴木 一美	竹内 憲博 中内 明子
5	10月12日 (土) 10:00～ 12:00	2時間	旧春山保育園	9	中国(8人) ルーマニア (1人)	書道	日本の漢字や白川文字、書道について学ぶ	中内 明子	竹内 憲博 古田 裕哉 桶谷 道代
6	10月19日 (土) 10:00～ 12:00	2時間	旧春山保育園	5	中国(3人) ドイツ(1人) オーストリア (1人)	事故の対処法	交通事故や犯罪について学び、対処法をロールプレイで学ぶ	小林 美位子	古田 裕哉 高島 尚美
7	10月25日 (金) 14:00～ 16:00	2時間	旧春山保育園	3	中国(3人)	救急救命	体の部位を学び、福井市消防局の職員から救急救命について学ぶ	東 利子	小林 美位子 牧野 ふみ代
8	11月8日 (金) 14:00～ 16:00	2時間	旧春山保育園	7	アメリカ (1人) カナダ(1人) 中国(4人) ドイツ(1人)	茶道	茶道について学ぶ	牧野 ふみ代	小林 美位子 古田 裕哉 東 利子
9	11月15日 (土) 10:00～ 12:00	2時間	旧春山保育園	3	ベトナム (2人) 中国(1人)	冬の行事	冬の行事について学ぶ	小林 美位子	東 利子
10	11月22日 (金) 14:00～ 16:00	2時間	旧春山保育園	4	アメリカ (2人) ドイツ(1人) 中国(1人)	年賀状	干支や年賀状の書き方について学ぶ	東 利子	牧野 ふみ代 小林 美位子
11	11月29日 (金) 14:00～ 16:00	2時間	旧春山保育園	4	アメリカ (2人) 中国(2人)	人とつきあう	自分の地元の紹介や、のし袋について学ぶ	古田 裕哉	高島 尚美 小林 智恵

12	1月10日 (金) 14:00～ 16:00	2時間	旧春山保育園	4	中国(1人) ベトナム (3人)	買い物①	スーパーでの買い物について学ぶ	桶谷 道代	小林 智恵 古田 裕哉
13	1月17日 (金) 14:00～ 16:00	2時間	旧春山保育園	5	中国(1人) ベトナム (3人) ドイツ(1人)	買い物②	ショッピングモールでの買い物について学ぶ ※12月13日開催予定だったが日時変更した	小林 智恵	古田 裕哉 桶谷 道代
14	1月18日 (土) 10:00～ 12:00	2時間	旧春山保育園	4	ベトナム (2人) 中国(2人)	春の行事	春の行事について学ぶ	高島 尚美	小林 智恵 桶谷 道代
15	1月24日 (金) 14:00～ 16:00	2時間	旧春山保育園	4	ベトナム (2人) アメリカ (2人)	料理	料理について学ぶ ※12月7日開催予定だったが日時変更した	小林 智恵	古田 裕哉 桶谷 道代

(7) 参加者の募集方法

県内国際交流団体、図書館、公民館、大学、ハローワーク、福井市役所、市内小中学校、幼稚園、保育園、外国人が通う教会、実習生受入れ団体に案内ちらしを送付。当協会ホームページ、FACEBOOKでの広報

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

第3回目「旅行先に行くのは？」

自分が行ってみたい旅行先を決め、時刻表や旅行会社のパンフレットを使い、どの交通機関を使いどのようなホテルに泊まればよりよく行けるかを、学習者がプランニングして発表した。

第7回目「救急救命」

体の部位についてや、119番のかけ方を学んだ後、福井市消防局の職員から救急救命や応急処置について学んだ。

第12回目「買い物」

スーパーでの買い物をテーマに、「消費期限」「賞味期限」「要冷蔵」「要冷凍」や売り場案内の漢字や、チラシを見てお買い得品の見方を学んだ。また、店員との会話をロールプレイで学んだ。



(9) 取組の目標の達成状況・成果

講座の中で、指導者が、譲り合いや思いやり、相手のことを思って行動することの大切さについて触れるなど、日本語だけでなく日本社会で人間関係を築く際に助けになる心配りについて学ぶことができた。今後どのような日本語が学びたいかについては、「もっともっと話せるようになりたい」「日本の生活習慣について学びたい」など、日本社会にもう一歩足を踏み込みたいという気持ちを感じ取れた。

(10) 改善点について

取組1と同様に、学習者の日本語にレベルの差があるため、学習者によって難易の差が見られた。指導者やボランティアがフォローすることで学習をスムーズに進めることができたが、教室運営の難しさを感じた。また、前期は、休日開催日を日曜日の午後に設定していたが、就労者の参加者数が伸びなかった反省から、日曜から土曜の午前に変更したが、参加者数は伸びなかった。さらに冬になり雨や雪が続くと、学習者が欠席し、開催日を変更することがあった。事前リサーチが不足していたと思うので、開催日時を設定を改善していきたい。

○取組3:シンポジウム

(1) 体制整備に向けた取組の目標

今年度の取組みを、広く市民や自治体関係者に知ってもらい、外国人住民が見た福井についてのパネルトークを通して、多文化共生や外国人に興味のない市民にも外国人のことを知ってもらい、日本人住民として1人1人が何ができるかを考え、理解を深める。

(2) 取組内容

一年をとおして実施した日本語教室での取り組みや、外国人が必要とする生活に関する日本語やその他情報などについて自治体関係者や市民を交えて考える。

(3) 対象者 市民、自治体関係者、国際交流関係者、日本語指導者

(4) 参加者の総数 49人

(出身・国籍別内訳 日本38名、ブラジル4名、アメリカ1名、中国3名、ベトナム1名、ミャンマー1名、デンマーク1名)

(5) 開催時間数(回数) 2時間 (全1回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	2月22日(土) 13:30～15:30	2時間	福井県自治会館	49人	日本(38名) ブラジル(4名) アメリカ(1名) 中国(3名) ベトナム(1名) ミャンマー(1名) デンマーク(1名)	シンポジウム	一年をとおして実施した日本語教室での取り組みや、外国人が必要とする生活に関する日本語やその他情報などについて自治体関係者や市民を交えて考える。	東 利子 小林 美 位子 小林 智 恵 高島 尚子	

(7) 参加者の募集方法

県内国際交流団体、図書館、公民館、大学、福井市役所、市内小中学校、実習生受入れ団体に案内ちらしを送付。
市政広報に掲載。当協会ホームページ、FACEBOOKでの広報

(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)

日本語教室に参加した福井在住の外国人とのパネルトークを通じて、日本人と外国人が共に暮らしていく上で地域に住む1人1人がどのようなことができるかを考える機会としてシンポジウムを開催した。
まず、平成25年度文化庁委託事業として当協会が実施した取組の成果を報告した。その後、パネルトークで、外国人住民に「日本語を普段どのくらい使うか」「自分の国と日本で違うと思う事や驚いた事はあるか」「日本語が分からなくて不便だと思うことはどんな時か」「どんな日本語が勉強したいか」などについて話をもらった。
また、「近所に外国人が住んでいて、知り合いもいなくてさみしそうです。地域にとけこめるようあなたならどうしますか?」というテーマで、参加者と意見交換した。

『近所に外国人が住んでいます。近所に知り合いもいなくてさみしそうです。地域にとけこめるようあなたならどうしますか？』

【日本人の意見】

- ・地域のイベントを紹介する。一緒に参加する。国際交流会館に連れていく。自分の知っている外国人の友達を紹介する。自分の家が遠くないなら、空いた時は連絡しあう。
 - ・話してあげる
 - ・挨拶をする。イベントがあったら誘う。近所の人たちと一緒におしゃべりができる機会をもうける。
 - ・あいさつしてみる。国際交流会館を教えてあげる。
 - ・声をかける。毎日声をかける。話を聞く。
 - ・おはようとあいさつをします。
 - ・地域の行事と一緒に参加をする。
 - ・「どこの国から来たの？」など話しかけて仲良くなったら、一緒にご飯を食べに行ったりもって会話を増やす。
 - ・どこの国の方か分からないので多少の心の準備が要ると思いますが、まず挨拶でしょうか。笑顔を向けるだけでも交流が始まるような気がします。きっかけをこちらから作りたいです。
 - ・とにかく話しかけます。勇気を持って、勇気が一番です。困っていることはないか？から話を進めます。あとは勇気と愛情。おもてなしは福井人の心の中から生まれます。
 - ・友達になる。一緒にどこかに行ったり遊んだりしながらいろいろ教える。楽しくゆったりゆっくりなじめばOK
 - ・お茶でも飲みませんか、と声をかけてさりげない話題からうちとけやすいようにする。
 - ・まずあいさつを必ずするようにする。個人的なことはあまり聞かないで何かこまっていることはないか、その人の日本語のレベルをみてやさしい日本語で話してあげる。
- 困っていることがあれば地域の人たちとも挨拶し、解決する方法を見つける。
- お互い信頼関係ができれば日本の文化や習慣について家に招待したりしながら紹介する。
- ・自分の方から話かけてあげる。機会があれば家に来ていろいろ話をして楽しい時間をもってあげる。話の内容はその方の国、食べ物、子ども時代のことなど。
- 自分も世界を歩きたい話をする。
- ・私自身が外国語が話せないので、まず①挨拶 から初めて ②世間話 を カタコトでも話せるようになったら、③私の友達と一緒に話してもらう。
 - ・英語が話せないので、とりあえず日本語で挨拶をする。挨拶ができるようになったら、いろいろ話をしたいです。

【外国人の意見】

- ・ひまなとき、外国人と一緒にしゃべりたいです。日本のいろいろなことをおしえたいです。
- ・もしその人に会ったら、ぜひ友達になりたいと思います。よかったら、一緒に日本の文化を学びたいです。
- ・公民館によく行きます。地域の活動にたくさん参加します。たとえば祭りとか、民踊とか、掃除活動とか。だんだん地域の人たちと知り合いになります。
- ・いい機会を待って日常的なことでつたいをオファーする。
- ・はじめに自己紹介していっしょに遊びに行きます。あと国の料理を作って食べさせます。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

1年間の取組みの成果発表や、パネルトークを通じて、生活者としての外国人への日本語教育の現状や課題について日本語指導者や多文化共生に関わる関係者との情報の共有ができ、一般市民にも広く知らせることができた。

今回のシンポジウムでは、普段あまり外国人と接する機会の少ない市民も参加し、生活者としての外国人がどのような場面で不都合を感じているのかや、外国人から見た福井を知ること、福井に住む外国人への理解が深まり、お互いが住みやすい地域づくりに関心が深まった。

【参加者アンケート結果】

- ・普段住んでいると分からないことを外国人の視点で知ることができた
- ・外国人が何に困っているか少し分かることができた
- ・生きていくための物事の捉え方がすばらしい。アメリカでも日本でも他の地域でも同じことだと思った
- ・同じ漢字でも中国語では意味が違うというのが面白かった
- ・海外の人の目線の意見が聞けてためになった

(10) 改善点について

これまで日本語指導や外国人支援等に関わったことがない市民にも、こうした取り組みを広く知らせる機会を継続的に設けることは重要だと思う。今後も一般市民も取り込んだ活動を続けていきたい。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

外国人住民が、地域住民とのコミュニケーションを図り、地域の一員として生活していけるよう行政・警察・消防などの機関と連携し、生活に密接に関わる日本語の習得を図る。

(2) 事業目的の達成状況

- ・この一年の取組を通して、外国人住民が様々なテーマでの日本語を学ぶ機会を創出することができた。
- ・日本語指導者、行政、警察、消防を含めた多様な担い手に関わったことで、異なる角度から日本語や日本での生活術を教えることができ、この取り組みの成果が派生的に広がっていくことが期待される。
- ・外国人参加者にとっては、この取組を通じて日本で暮らすための日本語習得の重要性を確認し、日本語を使って積極的に地域行事等に参加することで、支援を受けるだけでなく自らも地域住民として、地域づくりの担い手となる意識を持つ機会となった。

(3) 地域における事業の効果、成果

取組1、2では、外国人が生活に密接に関係する日本語を学び、講師や日本人ボランティアとの交流を通して、日本の習慣や文化に触れる機会を創出した。また、講師やボランティアも、行政や関係機関との連携により、より正確で細かい情報に触れることができ、今後の日本語指導での幅の広がりができた。

取組3では、日本人市民が外国人を同じ地域に住む住民としてとらえる機会になった。また、日本語指導者でなくても、ほんの一步踏み出すことで自分たちも多文化共生社会の担い手になる意識をもつ機会になった。

(4) 改善点、今後の課題について

i 現状

福井市では、外国人住民は2009年以降減少傾向にあり、2013年の外国人数は3,731人で、総人口に占める割合は1.37%である。外国人住民が散在して住んでいるため、日本人住民にとっては普段の生活の中で外国人住民と接する機会が少なく、外国人との共生に対する意識は低いと思われる。

また、福井県内では、生活に密着した日本語を学ぶ機会が少ないため、災害時の対応法や、ゴミの出し方など、生活に関する日本語を学べる機会が必要とされており、行政等関係機関との連携が必須であると考えられる。

ii 今後の課題

今年度の取組みでは、行政・警察・消防等関係機関との連携で、日本での生活について幅広く学ぶ機会を設けられたが、今後は更に連携を深めていく必要がある。また、外国人住民が散在して居住しているため、講座の開催場所の設定の難しさを感じた。今後は外国人住民が比較的多い地域の公民館などで、地域住民と交流しながら生活に関する日本語を学べるような機会を設けていきたい。

また、福井市に居住する外国人は、永住者や定住者が半数を超える。今年度とりあげたテーマ以外にも、彼らのライフスタイルで必要になってくる「子供」や「結婚や出産」など、幅広いテーマを学ぶ機会が必要である。また、外国人が地域住民と共生していくために橋渡しとしての役割も担っていきたい。

iii 今後の活動予定

今年度の取組みで築いたネットワーク、運営経験を活かし、さらに地域とのつながりを深めながら教育内容を充実させ地域と共に発展する事業を目指して、今後は、公民館を利用して日本人住民と外国人住民が交流できる場の創出や、子どもの教育、防災意識の向上など、様々な切り口で外国人と日本人が住みやすい地域づくりを行いたい。

(5) その他参考資料